

S S T L

職場参加ニュース

NO. 79 23. 2. 14



共に働く街を創るつどい2022

開催しました！

「障害者の職場参加」の水脈から 地域共生の現在をたどる

24回目の「つどい」を12月3日(土)、越谷市中央市民会館で開催しました。冒頭越谷市福田市長のメッセージ代読をいただいた後、パネルディスカッションを行いました。今回は90年代の埼玉で「職場参加」の発想と多様な試みが生まれた経緯を各々の語りでふりかえりました。「遅れた埼玉」だからこそ、「追い付き追い越せ」ではなく地域へのこだわりを大事にする「職場参加」の水脈。そこから新座では高齢者が障害者と出会いながら「地域共生」を探る独自の地域福祉が生まれました。さいたま市の見沼田んぼでは若者、事業主達、外国人、在日の人々が障害者と農園を運営しながら「街」のありかたの分解・再生の営みを紡いでいます。「職場参加」では「本流」となった当会では地元自治体や事業主、労組、市民団体、福祉施設等との縁を基に水脈を拡げてきましたが、4年前からの障害福祉サービス事業を機に総合的な見直しが問われています。心強い水脈の拡がり方を再確認するとともに、新たな出発へのエールをいただいた実感を抱いた「つどい」でした。

(コーディネーター：事務局長・山下 浩志)



「つどい」では、パネルディスカッション終了後、今回も近隣3市首長への「共に働く街をめざす自治体提言」を発表しました。当会の活動に関わる障害当事者たちが、提言の内容を要約して読み上げました。(左の写真)

パネルディスカッション 前半のあらまし(後半は次号に)

「障害者の職場参加」の水脈から地域共生の現在をたどる

パネリスト：木村俊彦さん（キャベツの会事務局長、元新座市議）、猪瀬良一さん（見沼田んぼ福祉農園代表）、猪瀬浩平さん（NP0 法人のらんど代表理事、明治学院大学教授）、沖山稚子さん（相談支援事業所「世一緒」所長、元障害者職業総合センター主任研究員）、樋上 秀さん（たそがれ世一緒管理人、元重度障害者職業自立協会の店吐夢亭店長）、

コメンテーター：内田元洋さん（越谷市地域共生推進課副課長、黒沢和人さん（越谷市障害福祉課副課長）

コーディネーター：山下浩志（当会事務局長）

山下浩志 本日コーディネーター担当の朝日さんは、お連れ合いが昨夜出先で転倒され、緊急対応が必要な状況となりご欠席となったため、急遽私が代役を務めさせていただきます。（パネリスト、コメンテーターの紹介）。

まず、パネリストの皆さんに、自己紹介と取り組み等についてご報告をいただきたい。

学校と職場にこだわり続けて

木村俊彦 猪瀬良一さんとは10年ぶりだ。1979年養護学校が義務制になったときに教員になった。世の中は反対運動があったのに、養護学校の中は無風だった。

小学部の1年生で担任した生徒で地域の学校に戻りたいというので、誰か橋渡ししてくれる人はいないか、あちこち当たった。それで猪瀬さんを紹介されたのが、最初の出会い。その後、県内の普通学級就学を目指す団体が連絡とり合って動き始めた、その中心が猪瀬さんだった。3人の親でおやじの会を作った、一人は猪瀬さんでもう一人は新座の中島さんだった。養護学校は知的障害と肢体不自由、計14年勤めた。

地域の中でよろづやという店を障害者が中心でやっていたが、応援してくれる人がいないと無理だということで、僕が学校を辞めて張り付くようになった。

当時和光市に緑風園という入所施設ができた。まだ知的障害の養護学校にいた時に親が運動を始めた。なんで小学部に入ったばかりの子どもの入所施設づくりなのか？手伝えないと断ったが、その成果ができた。当時担任した生徒たちがしばらく作業所に通いながら親が手に負えなくなったら入所するのかと思っていたら、みな作業所をやめてそこに入った。ある子は養護学校を退学してそこに入った。見学して教え子に会ったけどみんな帰りたいから荒れ狂って、そういう施設生活を見た。結局養護学校で教師としてやってきたが、行きつくところはこれなのかと思った。やるべきことはこれじゃないと、養護学校をやめた。

当時、世の中ではノーマライゼーションが叫ばれていた。施設を作るのはおかしいと思ったが、親が作ってくれというのを反対はできない。親の思いで入所施設ができてそこに入れてみんなよかったねというのはおかしいと思った。教員をやりながら地域活動をやっていたが地域活動に専念することにした。当時は補助金も無いからカンパで形を作っていこうということで始めた。②

その年に、労働省が重度の障害者の職業自立を探る、地域障害者雇用推進総合モデル事業がスタートした。東上線の沿線プラス所沢市の8市。だからその情報は早めに持っていた。モデル事業が始まる前年に紹介してもらったのが沖山さん、障害者雇用促進協会。それで仲間に引きずり込んだ。

就学運動をやりながら「職場参加」。この言葉を最初に使ったのは新座だと思うが、新座ではこの取組は今あまり進んでいない。だが、越谷、春日部はずっとやり続けていた。「障害者の社会参加」というときに、日本では交流教育というレベルでしか考えられていないが、一番大きいのは学校と職場。日本の社会参加はそれをのぞいたところで語られてきた。だからホームヘルパーは通勤、通学では使えない。一番大事な学校と職場をのぞいたところで社会参加が語られる。おかしいのではないかとずっと思っていた。

当時は、障害者が施設ではなく地域で活動することを応援するセンターをやろうと。その時に公民館のいろいろな活動に参加することを狙ってふれあいタイムという時間を作ってもらい、最終的には一人ひとりが自分の行きたいサークルに入っていければと思った。でも当時は障害者達も若かったからおじさんお婆さんのいるところには行きたくない。若い人はどこにいるのかと言ったら結局学校か職場しかない。

でもいきなりいろいろな職場に行けないから市役所へ。もぐりこんでいろいろやっていた。障害を持っている人は時間があるし、社会に参加したいから、頻繁に議会傍聴にも行った。うち、落ち着きがない人が市議会開催中に乱入する事件もあった。でも当たらず触らずで通っちゃった。そんなことで市役所の中に働くこと、当時は市役所の中にある社協でやって、それが段々広がっていった。作業所は「障害者が働く喜び」というけれど、全然社会参加につながらない。そんな感じで市役所の中の実習につなげた。

モデル事業は5年間、終わった段階で県と新座市に同じような観点で提言を出した。障害者だけに適応を求める発想を変えるとか、市町村段階の就労支援とか、福祉と労働の谷間を埋めるとか、すでに出来上がっていた施設型の広域な県西部の地域障害者雇用センターじゃないものを目指すべきだと盛り込んだ。その後、新座市は独自に市役所内に就労支援センターを立ち上げた。

山下浩志 今振り返ると職場参加という取り組みが養護学校の教員であった木村さんの体験、そして若い人は地域にいないから職場、市役所というところに焦点が向いて行った過程がよくわかった。資料集の2, 3ページのあたりに木村さんの取り組みや、猪瀬さんと一緒に普通学級就学を目指す連絡会を立ち上げたことが書いてある。そして5, 6ページ、猪瀬浩平さんが出版された「分解者たち」、各新聞のこししの3冊に選ばれた名著だが、その年表を拝借したものがある。それでは猪瀬良一さんにお話を聞きたい

普通学級就学と見沼田圃と

猪瀬良一 まず木村君と出会った時の話をすると、1979年、生徒さんで寡黙な子がいて、地域の学校に戻したいという話があってうちが地元だったので応援しよう。うちの子が普通学級に行っていた時にこんな重い子がと言われていた、その時からの付き合い。

その頃から、見沼田んぼというところの保全運動をやらうと私も通って、だったら障害者と働けばいいんじゃないかと、耕運機が手に入らないからだったら県に言えばいいんじゃないかと勝手に出して。小学校普通学級に入れるのが当たり前だろうと思っていて、普通に育てればいいから、それで20年ぐらい、普通にあたりまえに小学校が終わったら中学校、高校という考え方で、保全運動もやって入っていった。その中で、山下さんとの出会いもあった。

1999年、スコップとか持って、一輪車とかみんなで集まってきてやったが、田んぼに・・・市の担当者から言われちゃって、農業振興地区では・・・何とか農地として作ってきた。人がいないと。今はわらじの会もお母さんたちが来てくれているが、わたしが行けない。たまに息子に連れて行ってもらうぐらい。そんな感じ。自分としては、息子のことを含めてあたりまえのこととしてやってきた。だから、学校もそうだった。行きたいからって、高校も7年かけてやっと卒業して、偉い遠回りしちゃったなというのがあるが、遠回りしたほうがいいこともあるし・・・生産緑地として・・・その後にさいたま市のネットワークの代表になっちゃって、その当時の市の人がいいんじゃないかということで。(以上、聴き取れなかった部分あり)

人口が増えている街ではない地域の文化として

猪瀬浩平 父がしゃべっていたのは私の6歳上の兄が重度の障害があってという話。

僕が生まれた頃に兄は普通学級に入っていて、その縁で自分もこういう集まりに子供のころから連れていかれた。木村さんの話を聞いて、いまの自分も木村さんのようにしゃべっているなど、子どもの頃に刷り込まれたしゃべり方をしていると感じた。

今父がしゃべっていたことを聞くと、見沼田んぼとい

1994年8月24日第三種郵便物承認
う埼玉県が誇る農地の保全地区があるが、それは障害のない、大多数が男の人たちで保全運動して勝ち取ってきたとされている。でも実は大部分を守ってきたのは農家の人たちで、そのことを置き去りにして都市住民が守ったというのはおかしいだろうと。

そして農園を歩いて行くと、そこは農地だけではなくごみ処理場だったり、一見美しくない、埼玉が大きくなる中で処理が必要になったものを集める場所だった。その中に養護学校もある。長年生きてきた人を入れて考えていかなければいけない。1986年、ハレー彗星が来た時に保全キャンプに連れていかれて、その時にうちの母たちを中心に普通学級で学ぶ親たちが参加していて、重度の知的障害だったうちの兄や少し上の子たちも参加していて、親から離れてどう暮らすかイメージするためのキャンプだったりした記録も出てきた。

歴史学者が調べるときれいに分けてしまうが、普通に分けないでいる。山下さんが言っている職場参加もそういうことだと思う。

20年ぐらい前のことを思い出したが、特に2000年代ごろの動きとして、職場参加の活動と重なる部分もあるかと思うが、2000年代後半、仲間になった団体に浦和北ロータリークラブがある。なぜかと言うと倉庫が壊されて農工具が盗まれ100万ぐらいの被害が出て新聞報道してもらったら、善意の人の寄付が集まって最後に浦和北ロータリークラブの人が来て金銭的に応援してくれるという話だったが、うちの父と一緒に働きませんかと言ったら、じゃあと言って一緒にやるようになった。その思いは自分の孫たちに緑地や安心して食べられる作物を作りたいと。そして世界から受け入れている高校生の受け入れ場として使ってくれたりした。

その中に越谷市の増林出身の不動産屋さんがいて、わらじの会の人を知っているという。お客さんを案内していたら橋本さんだか、わらじの会の障害者の車いすをぶつけられたと。その人が田舎から出てきていて田舎が嫌だと言ってるんだけど、でもちょくちょくきて語るその中に橋本さんもいる。

地元の経済をやっている人で必ずしも同じ考えではない人たちが一緒に農作業をする。実は今日兄が来る予定だったが、彼の暮らしているシェアハウスのような共同住宅の大掃除の日で、共同作業をさぼって来ることになるので良くないということで父を誘ったら来るようになった。今の家は障害のある人の施設でもグループホームでもなくて、農園の盗難事件ができたときに一番最初に駆けつけてくれた建築業の人の家、息子さんが自立して自分とパートナーとパートナーのお母さんと暮らしていたが、一人になってしまっただろうというときに別のロータリーの人が若い人と暮らしたら寂しくないんじゃないかと、ちょうど6年前で、じゃあうちの兄もそこで暮らそうと6年間そこで暮らしている。

そういう形で地域で暮らすというときに、母のほうは、街中で障害者だけではなく商店街で買い物したりして暮らすというのをイメージとして持っている。しかし、一方で商店街も衰退していく中で、見沼田んぼ近くのシェアハウスというところの少ないところで暮らして隔離

1994年8月24日第三種郵便物承認

されているんじゃないかというイメージを持つかもしれないが、実際に見ると、そこでいろいろな人と暮らしている。もしかしたら人口が増えている街ではないところの文化として考えていいのかなと思う。障害者がいるときに、さまざまに考えなくてはいけないところはあるけれど、兄が普通学級に通い、福祉農園で父よりはるかに毎日働いている延長で新しい障害者の地域での暮らしを創り出している。そのことをまだうまく言えていないのかなと考えている。あとで2017年から朝鮮学校の人が農園に来ている話もしたいと思う。

職場参加との出会い、障害福祉サービス参入後の問題

沖山稚子 77年から数えて6回目の転勤で埼玉に来て職場参加との出会いがあった。木村さん、よろづや、山下さんと出会った頃のことを話す。埼玉障害者職業センターの清掃を木村さんをお願いした。そうしたら木村さんが24時間TVの車で障害者たちと来て、動けるのは木村さんぐらいで、他は車いすの人たちばかり。きれいになるというより汚くなる。

その後、ハローワークが対応できない大変な方をよろづやや黄色い部屋をお願いした。労働省のモデル事業はただパソコンを配るだけの全く意味のない事業だったが、出会いがあったので私には意味があった。

そして良太さんとの出会いは、2彼20代前半ぐらいのとき。ジョブコーチは3日ぐらいで終わった。その後の勉強会で、お母さんからなんで1回しかできないのかと質問されて、でも私も終了でなく中断という形にしていたので、「何度でもできます」と言った。

そして次にまた、定年になってから、声をかけていただいて越谷に来た。そして地域に根差した就労支援センターの仕事をした。これが2015年で委託が打ち切られた。社会福祉協議会がやることになって、悔しかった。

失職後に就活して、落ちるとこんなにづらいことになるんだということを体験した。そして、生活に支障を抱える人、家庭機能不全、各分野でソーシャルワーカーで短期間就労していやになったらすぐに辞めた。

そして、運営委員として11年やっているが、この会が障害者総合支援法の福祉サービスに参入し、その中でこのことを次に語る。土台にはちょうど1周年になるか近隣のところでの虐待事件があった。自分の職場はどうかと思ったら私が感じていた違和感につながった。

これは私どもの体験だが、「みんながしんどくて仕方がない、ドクターストップになる職員が出てくるから出て行ってくれないか」と、わかりやすい排除。障害の業務をするスタッフの意識と価値観の違いがぶつかり合っていくならいいが、そうではない、むなしく響く、排除されることが職場の中である。

虐待、わらじ周辺のことはやっぱり他人ごとではない。自分の属する事業所でも、同じだと思う。

もう中でどうかという問題ではないのでいろいろなところに相談している。わがNPOが法内施設をやるのは無理だったんだろうと。運営委員としても関わって考えていきたい。

所沢の職業リハビリテーションセンターにいたとき、いろんな障害者がいるとしんどい、双方が苦痛を感じる、共にその場ににいるというのは双方が少しずつ調整しないといけない、ワーストと広い中で何とか配慮すればいいということではないということを経験した。生活困難者を支える現場では、同僚だった男性は生活保護の担当をしていた時、担当している人より悪いところに住んでいた。支えることが何もないところでの人を支える視点につながればいいと思った。

山下浩志 事業や組織の抱える困難について、あえて公開することで、周りの方にも関わっていただいて共に取り組み、一緒に地域を変えていきたいという発足当初の方針があり、あえてシンポジウムで共有したいと思ってそのまま発表していただいた。最後に樋上さんから重度障害者職業自立協会の時代からの職場参加の流れについてお話ししていただく。

共に働く事業所づくりの始まり

樋上秀 重度障害者職業自立協会の店吐夢亭(トムテ)がオープンしたのが1987年で、そこから35年だが、はじめに歌を一首。「越谷市世一緒もしながら35年」

ぼくはもともと春日部の武里団地の出身で、団地っ子。20年団地で育って、35年前にこの中央市民会館から3分ぐらいのところにトムテというお店をオープンして、僕が店長になるということで家を出た。トムテは、障害者自身による雇用促進法を使ったお店ということで職業的な障害者の自立をめざしていた。地域でいろいろなものを売って人とつながりながら、運動としては雇用促進法の納付金(罰金のようなもの)による助成金を障害者本人が労働省の方から分捕っていきこうということで、障害者雇用協会やハローワークに繰り返し出かけて教えてもらいながら、なんとか運営していた。

でも、そのころ僕自身が一番思い出に残っているのは、大阪に何週間か行って障害者団体の人の家とかいろんな交流して、僕としてはたたきあげの障害者のつもりでいたんだが、結局はたたき下がってしまった。大阪の障害者の根性はすごかった。そこからいろいろと人間関係を作って、今の職場参加の関係や県庁でやっているアンテナショップかっぱとかの草分けにはなっているかなあと思う。良太君が今日来ていないのがとても残念だ。樋上にすると猪瀬家はロイヤルファミリーでスターが良太君という存在なので。

山下浩志 1980年代35年前にこの近くに重度障害者職業自立協会の店吐夢亭を開業した。その時に雇用促進協会とハローワークなどいろいろ関係して、それが現在につながっているんじゃないか。当時重度障害者が働くということがほとんどなかった。企業の払うお金がプールされて、それを障害者団体が使って共に働くことを切り拓いた。そうした活動は全国的に展開していた。同じ時に先ほどのモデル事業、そういう時代という話だった。では前半を終わり休憩に入ります。

(後半は次号に掲載します)

市長

様

2022年度 共に働く街をめざす自治体提言

NPO法人障害者の職場参加をすすめる会

代表理事 尾谷 英一

埼玉県越谷市東越谷 1-1-7

職場参加ビューロー世一緒内

1) 共に生きるは共に学び育つから

子どものときに、遊んだりけんかしたりしながら一緒に育ってこないと、社会に出てからどうつきあっているかわかりません。だから、いろんな障害のある子もない子も、近所の保育所、幼稚園、学校で一緒に育ち、一緒に学ぶことを原則とし、場を分けた教育は特別な例外とすべきです。

2) あらゆる障害者施設、院内デイケアからの職場体験・職場実習の施策を

子どものときに場を分けられて社会に出る障害のある人となない人が、初めて出会い、一緒に働くことを通してつきあい方をみつけてゆくために、介護系も含む障害者施設や精神科病院院内デイケアの利用者が、職員等の支援を得て市役所をはじめとする地域の職場で職場実習を行う越谷市障害者地域適応支援事業は、全国的にも注目されています。近隣他市においてもこの事業を実施することを提言します。越谷市においては、この事業のいっそうの普及、啓発を提言します。

3) 支援のノーマライゼーションを

障害者施設や院内デイケアの職員たちも、通常は障害のない人々から分けられた場で支援サービスを提供しています。だから、市役所をはじめとする地域の職場での職場実習を支援することは、ふだんの支援のありかたを見直す貴重な機会であり、地域移行、自立援助を支援するためのトレーニングの機会として位置付けられます。その意味からも、この事業を重視すべきです。

4) 地域共生社会のベースに共に働く町工場、店、農家を

障害者雇用実態調査によれば、従業員29人～5人の零細企業が、身体、知的、精神のどの種別でも最も多く障害者を雇用しています。経営が厳しい中、家族、知人を含む地域のつながりに支えられ、義務でなく戦力として受け入れているのです。東久留米市では、商工会が「超短時間就労」の取り組みをしています。職場体験・職場実習も含めて、共に働く関係を、貴市として支援することが、これからの地域共生社会づくりにとって大切です。

5) 市役所及び市の公共事業で共に働く機会拡大を

貴市は地域の最大の事業所であり、住民の生活に密着した多岐にわたる職場をもっています。役所を訪れる市民が、介助が必要な障害者が働く姿と直接出会えるような働き方を、貴市役所で創出しませんか。そのためにワークアシスタントも検討課題です。また市の公共事業において、障害者雇用を進めるために総合評価入札制度を実施することも、今後必要と考えます。

6) 各世代の支援計画、都市計画に反映を

上に述べたことについて、貴市の障害者計画、障害福祉計画はもちろんのこと、高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画、子ども子育て支援事業計画、教育振興基本計画、地域福祉計画、総合振興計画等の見直しの際にも反映されるよう、あらためて提言します。

職場・地域ひろがりっうしん

●越谷・水辺の市



越谷市役所東側の葛西用水ウッドデッキでは、毎月第2火曜日に「越谷・水辺の市」を開催しています。越谷市内の様々な団体や事業所などが出店し、野菜、食品、お菓子、雑貨など豊富な品物を販売したり、ライブ演奏やフラ、お手玉、ぬんちゃくまで登場。写真は、11月8日(火)の、せんげん台「世一緒」の販売の様子です

●水上公園での花壇整備共同作業



県営しらこぼと水上公園での共同作業を定期的に行っています。就労継続支援事業所や就労移行支援事業所、生活介護事業所など様々な事業所が参加しているのが特徴です。毎年夏の終わりごろからは、花壇の花を夏の花から冬～春の花に植替える作業を行っています。写真は、11月11日(金)の作業後の様子です。参加者から「花植えが楽しかった」等の感想が多く出されました。

●産業フェスタ、3年ぶりの開催



コロナの影響で開催されていなかったしがや産業フェスタが、11月26日(土)、27日(日)に越谷市立総合体育館にて3年ぶりに開催されました。当法人は26日(土)に出展し、当会の活動のパネルの展示、障害者スタッフが絵付けしたしらこぼと笛、革細工販売をしました

●たそがれ世一緒



東越谷の職場参加ビューロー世一緒では、毎週木曜日の16時から19時に「たそがれ世一緒」を開いています。2016年から続いており、仕事終わりなどふとした時に気軽に立ち寄って、話ができる場となっています。100円で食事の提供もあり、食事を楽しみに来ている方も。写真は、12月8日(木)のたそがれ世一緒の様子。

●今年度も地域適応支援事業が行われました

越谷市には、障害者施設の利用者等が市役所や公的・民間の職場で体験実習を行う「越谷市障害者地域適応支援事業」があります。就労を第一の目的としていません。障害者が職場参加してだけでなく、職場の方も障害者とのつきあいに慣れることを目的としています。せんげん台世一緒では、ハローワーク、リサイクルプラザ、農産物直売所、老人福祉センター等で実習しました

●その人らしく活躍できる「働き方」シンポ

埼玉県立大学 研究開発センターシンポジウム2022	
その人らしく活躍できる「働き方」の実現を目指して	
公開方法	WEBシンポジウム(オンデマンド配信) 参加無料
公開期間	2023年2月中旬～7月末日
※申込開始	2023年1月中旬(予定) ※詳細はHPをご確認ください。
主催	埼玉県立大学研究開発センター
共催	埼玉県立大学保健医療福祉科学学会
後援	埼玉県 日本地域包括ケア学会

県立大学研究開発センターシンポ2022は「その人らしく活躍できる『働き方』の実現を目指して」をテーマに基調講演が朝日雅也さん、厚労省からの特別講演の他、県内から「その人らしく活躍できる職場・地域を目標として」と題し、6名が講演しました。ジョブコーチネットワークやワーカーズコープ、農福一体のソーシャルファーム、OT、障害者雇用総合サポートセンター等と並んで、当会より山下事務局長が職場参加について講演し、討論しました。2月中旬から7月まで下記HPの申込フォームからオンデマンドで視聴いただけます。

<https://www.spu.ac.jp/research/centers/tabid848.html>

す い ご ご F L A S H

●2022年8月17日

大坂富男さん(埼玉障害者市民ネットワーク)



埼玉障害者市民ネットワークは、毎年8月に埼玉の各部局と福祉政策を中心とした話し合いを行っています。この日は、8月25日(木)に行われた総合県交渉の事前学習会が行われました。県へ提出する要望書の読み合わせ、質疑応答などを行いました。

●8月24日 辻浩司さん(埼玉県議会議員)



障害者自立支援法が通るかという時期、法案とあって、人々の細かい声は通らず、一つの方角へ持って行ってしまふんだなと。福祉と政治は別だと考える人もいるが、やっぱり政治というのは関わっていかなくやだと思った。

自分の選挙の演説をききにきてくれる人で車椅子の人、女性、家族連れなどいろんな人がいて、ああこれが社会なんじゃないかと思った。バラバラな人が集まる、統一感なき連帯感を感じた。

●8月31日 吉原弘子さん(ILPぽぽんた第1期介助者)



最初はILP(自立生活プログラム)がどんなのかも知らないで介助者として来た。当時はエレベーターもバリアフリーもない状況で、何をするにも誰かに手伝ってもら

った。どこかに30分~1時間滞在するのに往復3~5時間かけてた。でもだからこそ楽しめたのかなとも思う。通行人にパンチをくらわす人、いつの間にかいなくなっちゃう人、大変なことだらけだったけど、色々なことが分からない私だからこそ続けられたんだろうと思う。

●9月7日 水島茂治さん(世一緒常連スタッフ)



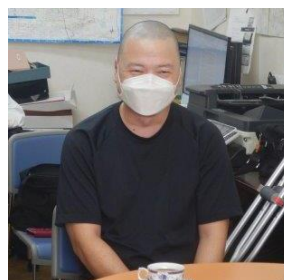
実家が八百屋で、後を継がないなら中学卒業したら出て行けと言われた。卒業後は自動車板金で働いた後、8年間自衛隊で勤めた。その後警備の仕事などやっていたが、歳をとるにつれ仕事に限られてきて、正社員を外されたのが悲しかった。怪我や病気もあり手帳を取ったら、ハローワークで「普通の会社に行く」と参っちゃうかもしれないと言われ、自分の人生を振り返ると、やると決めたら全力でやる、やらないときはやらない。というスタンスでやってきたと思う。

●9月14日 澤則雄さん(映画製作者)



子宮頸がんワクチンによる薬害の被害を受けた人たちが今苦しんでいる。行政による支援はなく、支援を受けているのは全体の1割ほど。被害を受けた人への誹謗中傷、迫害、攻撃があるのも問題。しかし、厚労省は今年4月から、それまで休止しているワクチンの積極的勧奨接種を再開することを決定した。この10年間で何があったのか。なぜ再開されるのか。皆さんにも、当事者の方の話を聞いて、色々考えていただきたい。

●9月21日 平林小太郎さん(熊谷CIL遊TOピア)



中3の時、骨髄炎で片足を切断した。ショックだった。高校生頃からひきこもるようになった。障害者になって、友人や家族の見る目が変わるんじゃないかと思ひ人が怖くなった。熊谷に相談支援センターがあると知り、そこに行って相談員の人に思いの丈をぶちまけた。しばらくして遊TOピアのチラシを目にし、障害者を必要としているということで、すぐの思いで応募した。最初は時給100円だったのが、パートに昇格して今では所長も勤めさせてもらっている。職場に恵まれて、今までやってこれていると思う。

すいごごカフェ 2/8~3/8 1時半のゲスト 	
8日(水) 幡本 建祐さん フラッシュバック研究者	白閉流コミュニケーション 青春前期、誤解と挫折に憤り泣き喚いた日々・・・その奥底からと人のつながりがいま紡がれて・・・
15日(水) 山中 律子さん 腹話術アーティスト	腹話術がひらく地域 Lunch Café どっこいしょ 腹話術師として施設訪問や地域寄席、ラジオに活躍する現在。腹話術と出会う前史を含めて。
22日(水) 未 定	未 定 この日はせんげん台世一結
3月1日(水) 澤 則雄さん 映画製作者	HPV ワクチン被害上映会中間報告 全国各地に被害者があり、2016年からの裁判も続いているのに積極的勧奨復活。その中での上映会では
8日(水) 須賀 保昭さん べしみ非常勤	ケアラーが介護の仕事に就いて 前に視覚障害の母に付き添ってすいごごに来た青年が、さまざまな障害者の介護現場に入ってみて

2022年度会費、寄付、協力費、かきくけP費ご納入ありがとうございました (五十音順、敬称略)

【2022年度会費】青木繁明 朝日雅也、阿久津康仁、石田貴美子、伊藤紀康、伊藤峰子、岩崎廣司、上野豪志、内野かず子、大坂富男、大田ちひろ、大武昭、沖山稚子、尾谷英一、及木聡、川口裕之、黄川田仁志、木下恭子、越野操、佐藤恵美子、清水泉、清水泰代、島根淑江、鈴木照和、関一幸、竹迫和子、田島玄太郎、巽孝子、巽優子、谷崎恵子、津崎悦子、辻浩司、辻彩子、友堅由紀恵、中山佐和子、並木理、野村康晴、橋本克己、長谷川顕、幡本洋子、原和久、原田真弓、樋上秀、日吉孝子、前田直哉、松田和子、松田典子、松山美幸、水谷淳子、谷塚祥子、山川百合子、山崎かおる、山崎茂、山崎泰子、山崎有子、山下浩志、湯谷百合子、吉田久美子、吉原広子、くらしセンターべしみ、共に働く街づくりセンターかがし座、生活支援センターえん

【寄 付】大坂富男、大田ちひろ、沖山稚子、小野達雄、門坂美恵、小井戸恵子、斎藤信子、鈴木照和、高橋儀平、田島玄太郎、伝田ひろみ、富沢一枝、野村康晴、長谷川顕、幡本洋子、原田真弓、樋上秀、水谷淳子、谷塚祥子、山下浩志、山崎泰子

【運営協力費】原田真弓、幡本洋子、田島玄太郎

【かきくけプロジェクト】野村康晴

職場参加デビュー一世一結

2023. 2.1~4.30 カレンダー

(2023年1月30日暫定)

2023年2月				2023年3月				2023年4月			
日	日中行事	ほか		日	日中行事	ほか		日	日中行事	ほか	
1日	水			1日	水			1日	土		
2日	木	当番会議	すいご(山田さん)	2日	木	当番会議	すいご(澤さん)	2日	日	障害者制度改革埼玉セミナー	
3日	金	せんげん台デビュー	すいご(山田さん)	3日	金	せんげん台デビュー	すいご(山田さん)	3日	月		
4日	土		しらかばプロジェクト	4日	土	障害者制度改革埼玉セミナー		4日	火		
5日	日		特別委員会	5日	日			5日	水	当番会議	すいご(山田さん)
6日	月	越谷市長へ提言	車加市長へ提言	6日	月			6日	木		たそがれ
7日	火			7日	火			7日	金		しらかばプロジェクト
8日	水	すいご(榎本さん)		8日	水	すいご(須賀さん)		8日	土	大熊一夫さん講演会	
9日	木	たそがれ		9日	木	たそがれ		9日	日		
10日	金	春日部市長へ提言		10日	金	しらかばプロジェクト ミニTOKO		10日	月		耳鼻科除草
11日	土			11日	土	大熊一夫さん講演会		11日	火	越谷水辺の市	
12日	日			12日	日			12日	水		せんげん台すいご(山田さん)
13日	月			13日	月			13日	木		たそがれ
14日	火	越谷水辺の市	職場参加事務局会議	14日	火	越谷水辺の市		14日	金		しらかばプロジェクト ミニTOKO
15日	水	職場参加を語る会	Lunch Cafe どうこいしよ(山中さん)	15日	水	職場参加を語る会	Lunch Cafe どうこいしよ(重さん)	15日	土		
16日	木	たそがれ		16日	木	たそがれ		16日	日		
17日	金	しらかばプロジェクト		17日	金	しらかばプロジェクト		17日	月		耳鼻科除草
18日	土			18日	土			18日	火		
19日	日			19日	日			19日	水	職場参加を語る会	Lunch Cafe どうこいしよ(山田さん)
20日	月	水上公園作業		20日	月			20日	木		たそがれ
21日	火			21日	火			21日	金		しらかばプロジェクト
22日	水	ピアサポート研究会	せんげん台すいご(山田さん)	22日	水	ピアサポート研究会	せんげん台すいご(山田さん)	22日	土		
23日	木	朝日歌壇合同最終講座		23日	木	たそがれ		23日	日	春日部市まつり	
24日	金		しらかばプロジェクト	24日	金	しらかばプロジェクト		24日	月	水上公園作業	耳鼻科除草
25日	土		サイタマおしゃべり	25日	土		サイタマおしゃべり	25日	火		
26日	日			26日	日			26日	水	ピアサポート研究会	すいご(木村さん)
27日	月			27日	月	水上公園作業		27日	木		たそがれ
28日	火			28日	火			28日	金		しらかばプロジェクト
29日	水			29日	水	すいご(重本さん)		29日	土		サイタマおしゃべり
30日	木			30日	木	たそがれ		30日	日		
31日	金		しらかばプロジェクト	31日	金						

の中はリハビリを兼ねた1~2時間内の屋外のアルバイトです。グループでやるので、初めての方でも大丈夫です。

は、素焼きの鳩笛の絵付けと、その普及・販売のための研修や営業活動です。

は、障害のある人や他の人々が日替わりゲストとなって、暮らしや仕事を語り継ぎます。あなたもどうぞ！

○茶色の字のスケジュールは、主に連携団体の主催行事で、一緒に参加できるものの紹介です。

○ほかのスケジュールは、主にハググループでの講座やミニイベントです。詳しい内容についてはお問い合わせください。

世一緒スタッフ日記

仕事について

野村 康晴

昨年の12月に施設の清掃の実習に行き、今年の2月より勤務することになりました。今までと違う環境で、少し不安と楽しさがいりまじっています。

最近の「世一緒」で昨年の学生の実習の振り返りをしていた時に、今の自分の気持ちと重なる部分がありました。

私と病気

水島 茂治

現在、自分の体は心ぞう血液の病気です。2月22日、心ぞうの血液検査をします。心ぞう検査は年1回行う。そのきっかけは1月28日全てわかり、内ぞうエコーとCT、血液検査です。

三十歳になった私

二〇二三年二月十四日発行(毎月十二回 二と四と六と八の日)

一九九四年八月二十四日第三種郵便承認

発行人 埼玉県障害者団体定期刊行物協会

〒333-0851

川口市芝新町十五-九 アステール藤野1F

通巻五三〇五号

森住由香里

今年の一年も自分生活よりよくするために、はたらいてしゅうにゆうをえることをもくひようにしながら、まわりの人とスマイルですごせるようにして、そしてこれ以上太らないようけんこうですごせていけたら幸せですね。

今年もよろしくおねがいします。

今の報告

新井 里佳

最近、スマフォにかえまして。つかい方はだんだん慣れてきたと思います。

仕事では、ちこくしないです。仲です。仕事仲間とラインをする仲です。せんげん台「世一緒」には仕事が終わりの時顔だしています。

新年の挨拶

樋上 秀

いっなくな拍手を阿炎の初場所新しい年が始まりました。今年もみんなでたそがれましょう。

精神的充実を求め旅楽し!

ふく

孫が3年保育で幼稚園に行き出しました。私の方は、手づくり班で火曜に見沼農園の他に太極拳・手話サークル・日本語教室のボランティアに世一緒の電話番号を昨年から水曜日にいらせて頂き、毎日充実して、時間が足りぬ位の毎日になりました。

これからの世の中

黒田 正巳

コロナになり、そのゴロシア、

しょうらいのこと

佐藤 秀一

自分はしょうらいのことは、子どもが好きだから、ようちえんかほいくしよの先生になりたいと思っています。

卓球バレー大会が神戸で

佐藤 俊郎

3/10金曜日に神戸に行きます。卓球バレー大会は神戸で行きます。卓球バレー大会はきんちようします。卓球バレーの練習があります。みんな楽しそに卓球バレーやります。

NPO法人障害者の職場参加をすすめる会

〒344-0023 埼玉県越谷市東越谷 1-1-7 須賀ビル 101 世一緒内 (ハローワーク斜向かい)
048-964-1819 (fax 共) shokuba@deluxe.ocn.ne.jp http://www5b.biglobe.ne.jp/~yellow/